

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京工業大学
整理番号	A①-2
事 業 名	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b style="font-size: 2em;">A</b>	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、東京工業大学が、清華大学及び韓国科学技術院(KAIST)と、3 大学間で実施してきたパイロットプログラムの経験と実績に基づき、「授業中心型教育」と「研究重視型教育」の 2 タイプの交流プログラムの強化、ダブルディグリー(DD)の拡充とジョイントディグリー(JD)に向けたプログラムの強化、「21 世紀型スキル」教育の強化という 3 つの強化に取り組み、個の力を社会に活かせる問題解決型人材の育成を目指し実施されたものである。第 2 モードとなる本事業においては、特に大学院生（又は学部 4 年生以上）を対象とした「研究重視型教育」に力を入れ、工科系の大学による特色あるプログラムとして展開している点が評価できる。 事業展開では、クォーター制学事暦の導入や学部と大学院を統一した「学院」の創設により整った留学支援体制を活用し目標値を超える学生交流が実現しており、コロナ禍であってもオンラインで清華大学による Summer School や 3 大学で協議、企画を行った Online Winter Camp 等が実施された。また、キャンパス・アジア同窓会の開設や、日中韓の 3 大学による運営体制や教育制度等の詳細について明示した「Implementation Guidelines」の開発、キャンパス・アジア幹事校としての積極的な広報活動は、特に評価できる。Implementation Guidelines により合意された質保証の仕組みが定着し、今後の事業展開においても、引き続き実施されることが期待できる。 一方で、DD 拡充と JD に向けた取組では、協議は行われているものの、期待した進展がみられない点は、非常に残念である。また、派遣・受入人数ともに目標値に達しているが、単位取得を伴う長期の交流が極めて少ない人数に留まっている。インターンシップが実施されていない点や、設定した外国語力基準が十分に適応できていない点についても、今後の事業展開において、改善に向けたより一層の努力が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	